

## 小規模校地区の学校について

**(質問)** どのような場合に複式学級が生じるのか。編成基準や授業形態について詳しく知りたい。複式学級によって学力が低下する可能性はあるのか。

**(答弁)** 「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」第3条第1項の規定により、児童または生徒の数が著しく少な

いなど特別の事情がある場合は、政令で定めるところにより、数学年の児童または生徒を1学級に編制することができる」と定められている。また、同条第2項の規定により、2つの学年の児童数が16人を下回る場合、1年生を含んでいるときは8人を下回る場合は複式学級の対象になると定められている。授業形態は、原則、2つの学年を1学級として1人の担任が受け持つ。少人数を生かしたきめ細やかな指導を行えるため著しい学力の低下はないものと考えている。

## 学校教育について

**(質問)** ICTを活用した教育の推進は大変重要な課題であるが、鈴鹿市は、教育ICT機器の整備が遅れており、各校で整備状況が不揃いな状態である。現在の本市の教育ICT機器の整備状況はどうなっているのか。今年度の整備はどのように進めていくのか。

**(答弁)** 本市の整備状況は、平成29年度の調

査で、教育用コンピューター1台当たりの児童生徒数12.7人など、他市と比べ低い状況である。今年度は、教育ICT基盤の構築、校務用環境の整備、学習環境の整備を進め、教職員用コンピューター1,300台と統合型校務支援システムの導入、児童生徒用コンピューター3,200台、大型提示装置950台、実物投影機680台を導入する予定である。来年4月には、教員と児童生徒がICT機器を使って学習活動ができるようにしっかり取り組んでいく。

## 「地域共生社会」実現に向けた支援について

**(質問)** 困りごとを抱えた人の声を把握できる体制づくり、制度の狭間にいる方への支援が求められている。地域福祉の「何でも相談員」として、コミュニティソーシャルワーカーの配置が必要である。また、市役所1階ロビーの喫煙所閉鎖後は、障がい者が力を発揮できる活躍の場として、アンテナショップの移転

先として活用してはどうか。

**(答弁)** コミュニティソーシャルワーカーの配置は、分野を超えた生活支援の課題を解決していくための有効な手段のひとつと認識している。アンテナショップでは、障がい者就労事業所で栽培した野菜、弁当、パン等を障がい者が販売しているが、市役所1階南側の窓に近接しているため、喫煙ルーム閉鎖後の利用方法として移転を検討している。移転により専用スペースが確保でき、接客担当を増員することもできる。

## 交通安全対策の強化について

**(質問)** 大津市で起きた事故を受け、保育園・幼稚園の園外活動の安全対策を図るべきと考える。また、交差点の危険箇所の調査と危険な交差点の安全対策を講じるべきと考える。

**(答弁)** 大津市の事故の報道を受け、管轄する公立保育所・幼稚園に交通安全指導の徹底を指示した。国から「保育所等での保育にお

ける安全管理の徹底について」通知があり、公立をはじめ市内全私立保育園・幼稚園等に対し、園外での活動の再確認と交通安全徹底の周知を行った。危険箇所の有無などの観点から再点検を行い、危険であれば、お散歩コースの見直しも行う。危険な交差点の図上調査を終えた後、洗い出し箇所の現地踏査を行い、その調査結果を踏まえ、それぞれの現場に見合った歩道巻き込み部の防護柵の設置についても速やかな安全対策を進めていく。

**その他の質問** ○選挙に関する取り組みについて